

建築仕上げ分野に見る 環境負荷低減

2020年10月、国は2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルを目指すことを宣言。その実現への動きの中で、GX(グリーン・トランスフォーメーション)やESG投資などの言葉も頻繁に聞くようになった昨今、温室効果ガス(≒CO₂)の排出量が多いとされる建築物分野での環境負荷低減の取り組みには注目が集まっている。もちろん建築仕上げの分野でもそれは例外ではなく、環境負荷を低減した上で、求められる性能・機能を発揮するための技術開発が続けられている。

本特集では、建築仕上げに関連した環境負荷低減に向けた取り組みの現状や、製品開発動向をレポートしていく。

編集部

〈インタビュー〉

○ 仕上材におけるCO₂排出量削減の取り組みと材料開発

(株)大林組 技術研究所 奥田 章子氏 36

○ 国交省のLCCO₂削減に向けた制度検討の取り組みと仕上材料業界に求められる対応

日本建築仕上材工業会 越中谷 光太郎 38

○ 脱炭素用語の基礎知識 41

○ 建築GX時代の環境負荷低減に応える低炭素高耐候水性塗料とCFP可視化支援

日本ペイント 前田 知樹 44

〈資料〉

○ 国土交通省土木工事の脱炭素アクションプラン 46